神奈川県中央部に露出する中津層群下部（上部鮮新統）から産出した塩原動物群の特徴種とその産出の意義[1]

瀬戸大暉（横国大・環境情報）[2]・間嶋隆一（横国大・環境情報）[3]

神奈川県中央部の相模川と中津川沿いには，新第三系 - 第四系中津層群が露出する．中津層群からは豊富な軟体動物化石が報告され，特に中津層群下部からは，浅海棲種が産出することが知られている．筆者らは，中津層群下部に狭在する礫岩層から，塩原動物群，掛川動物群および大桑-万願寺動物群の特徴種が共産することを発見した．本研究では，関東地域周辺における塩原動物群の年代層序学的研究に基づき，産出記録を検討した．

化石を産出した礫岩層は，細粒砂岩層中に狭在し，層厚が最大約2.3ｍである．礫岩層は南東へ約50ｍ連続し，せん滅する．岩相は，級化構造などが認められず，細粒砂を基質とする基質支持である．礫種は，主に砂岩礫とチャート礫からなり，泥岩偽礫を含む．泥岩偽礫には，有機物片や生物による穿孔痕が認められる．礫岩層からは，軟体動物化石が普遍的に産出し，巻貝類20属16種383個体，掘足類1属1種1個体および二枚貝類14属12種89個体が産出した．塩原動物群の特徴種は，*Laevicardium shiobarense* (Yokoyama)の離弁個体2片が産出した．

温暖浅海性の塩原動物群は，主に日本海側の北海道から島根県および太平洋側の岩手県から埼玉県の中新統から産出が報告されている．関東地域では，*L. shiobarense*は，埼玉県，群馬県，栃木県および福島県の16.4 Maから約10 Maの下部～上部中新統から産出が報告されており，上部鮮新統中津層群からの産出が最も若い記録である．著者らは既に本研究の礫岩層から *Glossaulax hagenoshitensis* (Shuto)などの温暖性掛川動物群の特徴種および *Anadara* sp. cf. *A. amicula* などの寒冷性大桑-万願寺動物群の特徴種の産出を報告していることから，太平洋側では，塩原動物群は後期鮮新世まで生存し，中津層群下部堆積時において，掛川動物群および大桑-万願寺動物群を含む日本を代表する3つの新第三紀-第四紀軟体動物群が共存していたと推定される．

---

[1]Characteristic species and significance of Shiobara fauna from the lower Nakatsu Group (upper Pliocene), in Kanagawa Prefecture, central Japan

[2]Hiroki Seto (Yokohama Nat. Univ.), [3]Majima Ryuichi (Yokohama Nat. Univ.)